

## ごあいさつ

平素より私ども中国銀行をご利用、お引き立ていただき、厚くお礼申し上げます。

平成27年度の我が国経済は、前半は日経平均株価が15年ぶりの高値をつけるなど、景気の先行きへの期待が高まりました。後半は雇用・所得環境に持ち直しの動きが見られ、全体としては緩やかな回復基調をたどりましたが、新興国経済の混乱といった不安要素もあり、今後も注視が必要な状況にあります。

地元経済においては、アジア経済の減速で一部の輸出や生産活動に弱さがみられたほか、個人消費や住宅投資の一服などを背景に景況感には慎重な見方が多く、景気回復の足取りは一進一退で推移しました。

また金融面では、平成28年2月に日本銀行によるマイナス金利政策が導入され、市場金利は大幅に低下いたしました。今後の金融・財政政策がお客さまへ与える影響を引続き注視するとともに、積極的な資金供給を通じて、地元経済の活性化に取り組む方針であります。

以上のような事業環境の中、当行では平成26年度からスタートした期間3年の中期経営計画『ちゅうぎん Heart 2014』で策定した各施策を着実に実施してまいりました。

当期における主な活動成果は後記のとおりです。

株主のみなさまに対しましては、当行普通株式1株につき配当金10円(中間配当金を含めた当事業年度の年間配当金は20円)とさせていただきます。

人口の減少や少子高齢化の進行などで地域の社会構造が変化する中、当行を取り巻く環境は一段と厳しさを増すことが想定されます。加えて今後は、他の金融機関だけではなく、異業種プレイヤーとの競争にも拍車がかかると予想されます。

こうした環境下において、当行が地域のお客さまに選ばれ、ステークホルダーの方々から信頼され続けるためには、さらなるサービスの向上に努めていく必要があると考えております。

そのため、平成28年2月より「10年戦略プロジェクト」を立ち上げ、将来見通しを踏まえた中国銀行の「あるべき姿」を策定し、それを達成するための戦略を構築することとしています。

平成28年度は、各地方公共団体において策定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を実行に移す重要な1年になると考えられます。本部・営業店の役職員全員が一丸となり、産学官金の連携を強化し、これまで以上に能動的に地方創生に向けた活動を推進してまいります。

当行においても、本年度は中期経営計画『ちゅうぎん Heart 2014』の最終年度となります。各戦略目標を着実に実行し、お客さまのニーズに沿った高度な総合金融サービスの提供により地域経済の活性化に積極的に取組んでいく方針としております。

また、コーポレートガバナンスを一層強化するため、監査等委員会設置会社へ移行することとしました。取締役会や取締役に対する監査・監督機能の強化や取締役会の審議の充実、迅速な経営判断の実践により、中長期的な企業価値の向上に努めます。

加えて、当行グループ役職員の行動の拠りどころとした「ちゅうぎんの心」を実践し、全役職員のベクトルを合わせ、中期経営計画のメインテーマである「地域社会やお客さまと相互発展する好循環の形成」をオールちゅうぎんで目指してまいります。



平成28年6月  
取締役頭取 宮長 雅人